

高浜1号の原子炉容器底部管台の ひび割れ隠しに抗議します 原子炉の運転を即刻停止し、管台を抜管し、 徹底した原因調査をして下さい

若狭連帯行動ネットワーク

貴社広報担当マネージャー3名は、私たちとの2月10日の2時間半に及ぶ交渉時に、「高浜3・4号炉の原子炉容器上蓋の管台部については、ひび割れ防止のため頂部温度を低くして使用しているが、念のため次回定期検査でECT検査をおこなう」と説明していました。しかし、高浜1号の原子炉容器底部管台のひび割れについては、1月にひび割れの兆候を検出し、ウォータージェットピーニング工事を実施し、ホームページに掲載する準備が整っていたにもかかわらず、何の説明もありませんでした。私たちとの交渉が済み、翌日が祝日のため12日に公表したのです。しかも、13日には原子炉を起動し、本日臨界に達する予定だとしています。これは無謀です。

これでは、貴社の体質も自主点検不正事件を起こした東京電力と同じではないでしょうか。貴社の不誠実でふまじめな対応に怒りを覚えます。厳重に抗議します。高浜1号の原子炉を即刻停止し、原子炉容器底部管台を抜管調査し、徹底した原因究明を行って下さい。

今回ひび割れの兆候が見つかった管台は低温冷却水の流入する原子炉容器底部にあります。原子炉容器の炉頂部温度よりかなり低い温度で応力腐食割れが起こっていることとなります。国内外で初めての経験だけに慎重に対応すべきです。12年前の美浜事故でも、蒸気発生器細管が流力弾性振動で疲労破断するという初めての経験でした。これを教訓とするなら、経済性を優先せず、大事故を起こす前に、原子炉の運転を止め、ひび割れの抜管調査と徹底した原因究明を行うべきです。

貴社はひび割れの大きさを長さ約32mm、深さ1mm以下と推定しています。しかし、ECT検査の精度はそれほど高くありません。貴社は、ECT検査の精度を調べた実験データすら「企業秘密」を理由に公開していません。このような曖昧なECT検査でひび割れが判定基準(深さ3mm)以下だと推定できるのでしょうか。原子力安全・保安院へ最近提出された報告書では、精度が高いと言われる超音波探傷検査でも実際の傷を10分の1程度に過小評価していたことが明らかにされ、大問題になっています。それより精度の悪いECT検査で大丈夫だと説明されても到底信じられません。

美浜事故を教訓として、定期検査中の高浜1号の本日の原子炉臨界・起動試験を直ちに停止し、ひび割れの兆候のあった管台を抜管し、徹底したひび割れ調査と原因究明を行って下さい。ここに強く申し入れます。